

築き上げた伝統と社会へと繋がる一本のたすき ～高校駅伝大会参加の取組報告～

熊本県立ひのくに高等支援学校

1 はじめに

本校は、軽度の知的障がいのある生徒の社会自立・職業自立を目的とした教育を行っている創立16年目の高等特別支援学校です。今年度は「キャリアを繋ぐ」、「人と繋がる」、「社会と繋げる」教育の実践を重点目標に据え、様々な教育活動を実践しています。放課後には陸上同好会の活動があり、各種大会等に積極的に参加しています。中でも長距離グループは熊本県高等学校駅伝大会を目標に日々練習に励み、今年で12回目の参加となりました。今年度の大会を振り返るとともに、陸上同好会の活動の軌跡と今後の展望について紹介します。

2 陸上同好会のあゆみ

開校4年目となる平成16年に放課後の活動として陸上同好会が発足しました。翌17年には熊本聾学校と本校との合同チームを結成し、高等学校駅伝大会に初参加しました。次の年からは本校で単独チームを編成し、以降毎年参加しています。例年2時間40分から50分台の成績でしたが、平成26年度は過去最高の「2時間38分16秒」の記録を出すことができました。今年はその記録の更新を目標にがんばってきました。



現在の陸上同好会には、全校生徒の約3分の1にあたる34人の生徒が所属し、競技力向上コースと健康保持増進コースに分かれて、毎日練習や運動に励んでいます。競技力向上コースは短距離グループと長距離グループに分かれ、障がい者スポーツ大会への参加に加え、高校総体をはじめとする高等学校体育連盟主催の大会や陸上競技連盟主催の記録会等にも積極的に参加しています

3 今年度の大会

今年度、長距離グループに14人所属しています。昨年度の大会の経験者4人の生徒、昨年度走れずにリベンジを誓った生徒、1年間短距離グループでスピードを磨き駅伝大会出場の思いを胸に長距離に転向した生徒に、将来を期待させる新入生が加わり、チーム内での競争意識が高まると同時に、互いの力を認めあう姿が見られました。大会当日、サポート役に回った生徒は一生懸命中継所でのサポートと応援を行い、選手は彼らの



思いも受け止め、精一杯自分の力を発揮し、たすきを繋ぎました。これまでになく仕上がった今年のチームは歴代最高記録となる2時間34分10秒で総合32位という成績を残すことができました。

4 今後の展望～スポーツを通じて社会と繋がる。

本校には、障がい者スポーツ大会の陸上競技やフットベースボールで全国レベルの成績を残す生徒、サッカーのクラブチームやスペシャルオリンピックスで活躍する生徒たちなど、学校外でもスポーツを通じて社会参加している生徒たちが数多くいます。その反面、特別支援学校高等部に通う生徒の中には、恵まれた素質を持ち、中学校までの部活動での高い運動経験があるにもかかわらず、それを磨き発揮する機会が少ないという現状があります。今後は2020年の東京パラリンピックに向けて障がい者のスポーツ環境が充実し、関心が高まっていくことが期待できます。それと並行して障がいのある生徒たちが、一般の大会においても多くの参加・活躍する場が広がっていくことを願っています。その願いの実現に向けた活動の一端として、本校では今後も一般の記録会や地域の大会に積極的に参加していきたいと思えます。これまで様々な大会において本校陸上同好会の取組にご理解、ご協力をしていただき、生徒たちがいきいきと輝く機会を持つことができますことに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

5 おわりに

最高の結果を残した3年生にも卒業が迫ってきました。今年の3年生の姿を見てきた後輩たちには、ぜひこれまでの伝統を引き継ぎ、さらに次の年代へと繋いでいってほしいと思えます。3年生は本校での学びに加え、陸上同好会で培った体力と精神力とともに、これから社会へと出ていきます。彼らがいつか同じ大会に出場した他校の生徒と社会で繋がり、今年の大会の思い出話ができるといいと思えます。

